

漢字を読むのは易しく、書くのは難しい

「漢字仮名混り文」、「総仮名書き文」、「ローマ字文」の三種類を並べて提示すると、全ての人が「漢字仮名混り文」が読み易いと答えます。ところが、学校で漢字の書き取り試験を受けた苦い思い出と、画数が多いので書き留めるのに時間を要するから、多くの人が『漢字は難しい文字である。』と感じています。そこで、仮名書き論者やローマ字論者が存続しているのです。そのような人達でさえ、「漢字仮名混り文」と並べて提示すれば、「漢字仮名混り文」が読み易いと感じるでしょう。新聞、小説、雑誌や、映画やテレビの字幕が、漢字で書くことの難しさに堪えて「漢字仮名混り文」で書かれて来たのは、それが最も読み易い表記法だからなのです。

文書作成手法の歴史

文書を作って他人に読んで貰うには、筆記用具を使うことから始まりました。そして、他人が作った文章を自分や友人の為に複製するのにも筆記用具を使って模写して来ました。更に、大勢の他人に一斉に配る為に木版で作られるようになり、文書の原稿を作る人と版木を彫る人の共同作業になりました。時代が進み、活字が発明されましたが、これも更に多くの人々の共同作業が必要でした。新聞、小説、雑誌の制作には、原稿の執筆から印刷完了まで、沢山の職種の人々が必要になったのです。その後、欧州ではタイプライターが発明され、キーボードを押せば活字が印字され、奇麗で読み易い文書を作成できるようになりました。しかし、26文字のアルファベットであった

が故の機械で、漢字仮名混り文に適用する和文タイプライターは利便性に欠けるものでした。

また、活字は柔らかい鉛合金を使っていたので、何度も使うと擦り減ったり潰れたりしました。耐久性を高める為に、画数の少ない文字が造られたりもしました。圓が円に代わり、學が学に代わるなど、多くの文字が造られました。

人工知能で漢字を書くのが易くなった

20世紀の末になり、人工知能が急速に進化する中で、日本語ワープロが創られました。英文タイプライターと同じキーボードからローマ字で入力すると、仮名に変換され、更に「変換」キーを押すと漢字に変換される方式と、仮名文字のキーを押して入力し、漢字に変換する方式が併用されました。

初期の漢字変換は、音読みで入力して変換キーを押すと候補の漢字が表示され、そこから選択するものでしたが、文節を纏めて入力し、「、」「。」の入力と共に適切と思われる漢字に変換する様に進歩しました。この時、訓読みで漢字に変換する事も併せて行われました。漢字変換のソフトは日々絶える事無く進化し、三菱電機、日本電気、松下電器の「でんき」の部分を区別して変換できるまで進歩しています。

漢字を定義するJISコードも大幅に増え、当用漢字に限らず、沢山の正字(多くの人は旧字と呼びます。)も登録されています。前の章で紹介した「圓」も「學」も変換できるようになりました。しかも、これらの電子活字は鉛合金の活字のように擦り減ることも、潰れることもあり

ません。これだけ進歩したからには、^{フロント}電子活字と最先端の変換技術を駆使して、漢字仮名混り文で文書を作成しない理由はありません。

更に、日常使われる事のない漢字も沢山登録され、中国の簡略文字も含まれているようですが、これはやり過ぎだと思えます。

^{スマートフォン} 携帯電話では入力も進化

ワープロはキーボードで文字入力しますが、^{スマートフォン}携帯電話に外付けのキーボードは不釣り合い、不合理です。電話機のプッシュダイヤルと同じ12個のボタンで操作します。「1」の所に「あ」が割り当てられ、連続タッチの回数で「あ」から「お」までが選べる処から始まりましたが、今は「あ」に指を当てると、左上右下の順に「いうえお」が表示され、指をずらしてから離すと該当する文字が入力されるようにまで進化しました。又音声入力も可能になっています。

書かれた文章は読み返せる

電子機器の進歩によって文章を書き記す事が容易になりました。^{もはや}最早、漢字仮名混り文を交換しながら^{いしそつう}意思疎通を図る事が、面と向かって話し合うのと、変わる事無く容易になっています。

もちろん通信機器の進歩は対話にも及んでいます。^{スマートフォン}携帯電話で相手を見ながら、表情を確認しつつ会話できるようになっています。でも、書かれた文章には「消えてしまわない」という利点があります。後で簡単に読み返せるので、何度でも読み返すことができます。時間が過ぎても消えない漢字仮名混り文を大いに活用しましょう。

館長の独り言

漢字仮名混り文の勧め

多くの人が「漢字は難しい。」と言います。しかし、本当は書く事だけが難しくて、読むのも、言葉の意味を理解するのも、仮名より漢字の方が易いのです。

そして、人工知能の進歩によって、「漢字を書く難しさ」から解放されたのです。漢字仮名混り文を読んで楽しめる人なら誰でも、「漢字仮名混り文」で文章を纏めて、自分の意見を多くの人に配信する事が出来ます。

中国で生まれた漢字を日本に取り入れ、日本語に適合させてきた先人の努力に感謝しつつ、「漢字仮名混り文」を読んで、書いて楽しみましょう。

石井未来館館長 石井峻

<http://ishii-miraiKAN.com>